

夏の夕べ ～こころをこめた手作りの七夕～

7月22日、柏原赤十字病院の2Fで、丹波市赤十字奉仕団が「夏の夕べ」を開催しました。

入院患者さんら約50人を前に、奉仕団員22人が「七夕劇・おりひめとひこぼし」を披露。他にも琴による「みあげてごらん夜の星を」や、オカリナでの「ふるさと」等の演奏で、患者の皆さんを癒しました。

七夕劇では織姫や彦星が登場し、歌や踊りを取り入れ、観客の入院患者さんに台詞を手伝ってもらったり演奏にあわせて一緒に歌ったりと、観客を巻き込んだ楽しい催しに、会場はおおいに沸きました。

参加できなかった患者さんにも、折り紙で折った朝顔を配した色紙と、折り紙で作った小箱がプレゼントされました。

丹波市赤十字奉仕団の荻野委員長は、「(病院) ボランティアをしているが、入院患者さんとの接点がなかったので、初めてイベントを企画しました。一緒に歌ってくれたり、楽しんでもらえたようよかった。」と話していました。



楽しい催しに、患者さんの笑顔がこぼれます。



織姫・彦星の登場に患者さんも大喜び。

青少年赤十字提供プログラム

～健康で安全な生活をめざして～



今年の夏は30度を越す猛暑日が続き、連日新聞等で熱中症などの急病で病院に運ばれる方の記事をみかけました。皆さまは元気にお過ごしでしょうか。

夏休みに入り、提供プログラムの申込みも一段落。8月に開催された1校をご紹介します。

8月10日、兵庫県立高砂高等学校で行われたオープンスクールに来校の中学3年生81名を対象に、AEDを使った心肺蘇生法と三角巾をつかったきずの手当のプログラムを実施しました。練習時間が30分ずつと限られており、練習用人形を前にして、人工呼吸や胸骨圧迫に躊躇されている方もいらっしゃいました。三角巾もまるで手品でも覚えるように一生懸命楽しく取り組んでいただきました。

講習のご案内 ～健康で安全な生活を送る知識と技術を～

日本赤十字社では、ケガや病気、災害から自分自身を守り、けが人や病人を正しく救助し、救急隊員等へ引き継ぐまでの正しい知識、技術を学ぶ講習会を開催しています。また、興味はあっても、長い時間をかけて受講することができない方には、AEDだけ、介護だけ……のような短時間の科目別講習も行っています。

健康で安全な生活をおくるための基礎知識です。どうぞお気軽に受けてみてください。

内容		開催日
救急法基礎・救急員養成講習(3日間のセット講習)		11月3日(木・祝)・5日(土)・6日(日) 11月26日(土)・27日(日)・12月3日(土)
救急法救急員養成講習(2日間)(救急法基礎講習認定者対象)		11月12日(土)・13日(日)
科目別講習	健康生活支援講習 「誰もが知っておきたい介護の基礎知識」	10月29日(土) 10:00～12:00
	健康生活支援講習 「高齢者の健康管理と家庭内の事故防止と応急手当」	10月29日(土) 13:00～15:00
	救急法講習 「AEDを使用した一次救命処置」	10月29日(土) 15:30～17:30
	健康生活支援講習 「災害時高齢者生活支援(災害が起こった時、支援できること)」	11月17日(木) 10:00～12:00
	健康生活支援講習 「癒しの看護・やさしいスキンシップ(リラクゼーション)」	11月17日(木) 13:00～15:00
救急法講習 「きずの手当」	11月17日(木) 15:30～17:30	

●開催場所は、いずれも日本赤十字社兵庫県支部です。
詳細及びその他の講習についてはホームページ <http://www.hyogo.jrc.or.jp/> まで

ひょうごの赤十字



Contents

特集

- 宮城県でのボランティア活動報告
- 青少年赤十字夏季リーダーシップ・トレーニング・センター
- 姫路赤十字看護専門学校トレーニングセンター
- ミニ救急法講習会イベント
＝メモ＝ 心肺蘇生法とAED(自動体外式除細動器)
- 夏の夕べ～こころをこめた手作りの七夕～
- 青少年赤十字提供プログラム
～健康で安全な生活をめざして～
- 講習のご案内

日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-4-5
tel. 078-241-9889 fax.078-241-6990
URL <http://www.hyogo.jrc.or.jp/>



宮城県でのボランティア活動報告

～被災者の皆さんへの思いを形に～

5月に開催された青少年赤十字協議会例会での宿題「東日本の被災者の皆さんへどうすれば自分たちの思いが形になるのか」を、兵庫県立国際高等学校の生徒が計画し、被災地でボランティア活動することを実現しました。(活動報告抜粋)

兵庫県立国際高等学校JRC部1年
村上 結李子

【8月7日】仙台空港を出るとあたりは被害が大きかった。名取市閉上(りゆあげ)区ではかなり地震と津波の被害が大きく、一階が柱だけで何も無い家や、建物の土台だけ残った跡、スクールバス、車などの残骸が印象に残った。塩釜近くの七ヶ浜(海水浴場)では打ち上げられたコンテナが数台あり、こんなに大きなコンテナが流されたことにびっくりした。

【8月8日】南三陸町のボランティアセンターへ行き、被害のあった家屋の片付けなどをした。南三陸町はほとんどの建物が流されて何も無い。残った建物も4階まで津波の被害にあったようだった。町内の壊れた建物や町並みはテレビで見たことがあるものがたくさんあった。

みんなで力を合わせて大きな物を片付けた時は感動した。ボランティア活動ってこんなにやりがいのある事だったんだと思った。

【8月9日】宮城県水産高等学校(石巻市)の生徒さんと先生と交流を図った。皆さんも大変なのに、とても優しく好意的だった。交流のあと高校付近を歩いて回り、地震と津波の被害をかなり受けた事をあらためて知った。



宮城県水産高等学校の皆さんとも仲良くなりました。

(まとめ)今回は南三陸町や石巻がまだまだ大変なことを知れたことが一番良かったと思います。予想していた以上に現状は大変でした。

私たちが撮影した写真などをパネルなどにして東日本大震災がおこってから5カ月、現地はまだ大変だということを紹介しながら南三陸町や石巻、ボランティアセンターあてに募金をしたいと思いました。

青少年赤十字夏季リーダーシップ・トレーニング・センター

～被災地へ、これから自分達ができること～

8月3日から5日まで、兵庫県高等学校野外活動センター(明石市)で、兵庫県中学校・高等学校青少年赤十字夏季リーダーシップ・トレーニング・センターを開催しました。

県内から4校の中学生、高校生の青少年赤十字メンバー23人、青少年赤十字指導者、兵庫県青少年赤十字賛助奉仕団員、神戸青年赤十字奉仕団員、姫路赤十字看護専門学校学生奉仕団員、計49人が参加。

今回のトレーニング・センターでは3月11日に発生した東日本大震災に焦点をあて、赤十字の救護活動、現地で赤十字の防災ボランティアとして活動した指導者の話を聞き、中学生・高校生である自分達が被災地に対してどのような活動ができるかを、この2泊3日の生活の中で、異なる学校の生徒たちが話し合いながら、行動計画を作成しました。

中には、「文化祭などのバザーで自分たちのいらなくなった服や物を売り、その収益を義援金として赤十字などに寄付する」などの計画を発表したグループがあり、指導者の方々も大いに感心し、是非実現してほしいとの要望も出るほどでした。

また、ボランティアサービスでは、生徒たちが2泊3日のトレーニング・センターを快適に過ごせるように、自ら身の回りのことに「気づき」「考え」「実行する」ことで自主性を養いました。

この3日間を通して改めて「震災」についてみんなで考えました。学校の授業にはない様々なことを学び、体験し、新しい友達をつくり、充実した3日間となりました。



災害時の高齢者へのケアとしての足浴は血行を良くして、疲労回復や入眠の効果があります。避難所では、ダンボール箱とビニール袋を利用して。



災害時に自分たちができること...



姫路赤十字看護専門学校トレーニングセンター

～災害時に迅速・的確に行動できるように～



実際の傷病者だと思って慎重に...



初めてのエアレントもみんなで協力して。

7月29日、宍粟市生涯学習センター学遊館で、姫路赤十字看護専門学校の1年生、2年生75人が、トレーニングセンターを行いました。

午前中は基礎行動から訓練開始。2年生は開始直後から声を出して、足並みも揃って動くことができています。最初とまどっていた1年生も、訓練が進むにつれ、また隣で訓練している2年生をお手本に、次第に呼吸が合ってきました。

無線機、テント、担架など、慣れない救護資機材の取扱も、真剣に説明を聞き取り組みました。全員で協力し合ったり、2年生が1年生のフォローする姿も見られました。

午後からは救護所を立上げての災害医療救護訓練。1年生はリアルなトラウマメークで傷病者になりきります。医療救護班として、それぞれの役割で動く2年生は、傷病の緊急度等により傷病者を選別し、処置の優先順位をつけるトリアージに大奮闘です。

担架搬送や、1年生扮する痛々しい傷病者に対する手当も、先生方の厳しい目が光る中、これまでの練習の成果を発揮し、「助けたい」一心で救護にあたりました。

訓練終了後、「難しかった。反省する点多かった。」と感想を言う2年生に対し、手当を受けた1年生は「肩に手を置いてもらったりして安心できた。」と、優しく看護してもらえた様子を話しました。

将来医療救護班として被災地で迅速かつ的確に行動できるように、今回のトレーニングセンターでは、災害救護活動への理解、災害時の基本的な救護技術、心構え、態度、行動力を身につけることを目的に頑張りました。



ミニ救急法講習会イベント

～知っていれば安心！
心肺蘇生法とAEDの使い方～

8月6日、イオン伊丹丹陽ショッピングセンター1階光の広場で「知っていれば安心！～心肺蘇生法とAEDの使い方～」と題したミニ救急法講習会のイベントを行いました。

このイベントは、「もしも目の前で人が倒れたら、救急車が来るまでの間に私達にもできること」として、練習用の人形とAEDを使って、実際に人工呼吸や心臓マッサージ、AEDの使い方を体験し、大切な人のいのちを守るための「正しい知識と技術」を身につけていただくことを目的に開催したものです。

「AEDの設置が進んでいるのは知っているが、使い方が分からないので知りたい。」と来られた方や、「テレビで見たから知ってる。本物を触ってみたい。」という小学生など、夏休みということもあり、当日は順番待ちができるほどの大盛況。大人から子どもまで96人もの皆さんに参加していただくことができました。

職員の説明を聞いて「AEDは電気が流れるから怖いと思っていたけど、電気ショックが必要でない人に使っても、電気が流れなくなっているなら怖くない。」と、AEDを使うことに自信を持たれた方や、「4時間半の講習にはなかなか行くことができないけど、今日少しでも教えてもらえてよかった。」という感想も聞かれ、救命に対する関心の高さがうかがえました。

また、会場ではミニ救急法と併せて、東日本大震災での兵庫県支部の救護活動を紹介したパネル展示等も行いました。



大人も子供も興味を持って参加していただきました。

＝メモ＝

心肺蘇生法とAED(自動体外式除細動器)

目の前で人が倒れたら、私たちに何かできることはあるのでしょうか。急病で倒れた方を前にして、一歩踏み出すのはとても勇気のいることですが、誰も手を出さなければ倒れた方の救命率はどんどん低下していきます。もしも、多くの一般市民の皆さんが「心肺蘇生法(気道確保⇒人工呼吸⇒心臓マッサージ[胸骨圧迫])」と「AED」の操作法を知っていたらどうでしょうか。



心肺蘇生法は手順を覚えれば難しいことはありません。AEDは心臓に電気ショックを与える機器ですが、音声指示に従えば簡単に操作できます。大切なことは、この心肺蘇生法とAEDを切り離さずに行うということです。そして一刻も早く医療機関に引き継ぐこと。このような手当てで誰かの命が救えるかもしれません。皆さんも、赤十字の講習を受けてみてください。

